ハマ街ビト

横浜には、独自のサービスや技術の強みを生かした魅力的な企業、団体が数多く存在しています。LTR 独自の視点で他社の参考になる先駆的な取り組みや、新たな挑戦をする企業とヒトをピックアップ。今回は、経営者にとって必要な「俯瞰的な視点」「志・理念」などを、仏教的な視点からご紹介します。

2022 年 2 月、LTR は複数のお寺のご住職とともに、「経営者の学び × 交流 × 非日常の場としてのお寺」をコンセプトとした「ビジネス交流会　L カフェ」をスタートさせました。経営者は仕事上の経験を学びとして昇華するだけでなく、仕事以外の場面での経験や、人との出会いを通じて、素養を磨く必要があると思います。それは、会社や地域の未来を灯すための自己鍛錬の場であり、同じ体験をすることで、参加者同士が関係性を深め、新たなコラボレーションにつながるきっかけ作りの場にもなるはずです。

今回のハマ街ビトは、LTR と「ビジネス交流会　L カフェ」の企画立案・運営に携わってくださっている石田ご住職（南区／久保山光明寺）に人生、そしてビジネスに必要な考え方などを仏教的な視点からお書きいただきました。石田ご住職は、お寺の経営に関する講義なども定期的に行っています。経営理念や志と核となる部分は変えることなく、時流に合わせて事業戦略を見直し、組織を変革してゆく……。分野は異なるものの、共通している部分もあるのではないでしょうか。そんな石田ご住職によるコラムを、ぜひご一読ください。（司法書士　清水 敏博）

仏教を経営に生かしてみよう

私は寺の住職をしながら、インド仏教の研究者として論文を書き、僧侶の皆さまが地域における寺院のあり方を考えるグループワークの講師を担当することもあります。寺院も一つの法人であり、適切な運営が必要です。また未来に寺院をつなげるためには、檀家さまや地域の方々の協力が不可欠です。

寺院は基本的に檀家さまからの布施、すなわち信頼に基づいて善意で差し出される金銭によって運営されています。ですから、信頼を裏切るようなことをすると、たちまち運営が成り立たなくなります。

これは、どんな仕事にも共通するところでしょう。経営者も自分の利益のためだけに働いていては、お客さまや従業員から見放され、仕事がうまくゆくことはありません。

寺院運営について話すときには、「住職がお寺を残したいと思っても駄目です。お寺に関わるすべての人にこの場所が必要だと思ってもらえるよう、住職は動かないといけません」ということを伝えています。そのためには、自分のことよりも、檀家さまをはじめとする他人のために行動する利他の精神が重要になります。

石田一裕（いしだ・かずひろ）
1981 年生まれ。北海道のお寺に生まれ、高校卒業後、元全日本仏教会理事長の白幡憲佑氏に弟子入りし、久保山光明寺にて修行。大正大学大学院仏教学研究科博士課程修了、博士（仏教学）。現在、浄土宗総合研究所研究員、大正大学非常勤講師を務める。僧侶としては、都内寺院での勤務、副住職を経て、2022 年より久保山光明寺住職。専門はインド部派仏教研究。著書に『お坊さんはなぜお経を読む？』など。

浄土宗久保山光明寺
横浜市南区庚台にある浄土宗寺院で、明治時代に吉田茂首相の養父である吉田健三が中心になって建てられました。境内には国指定登録有形文化財である書院、また横浜市指定文化財である木造菩薩立像（通常非公開）、木造地蔵菩薩坐像（どなたでもお参りできます）などがあります。